

甲田ゆり子活動報告

(2014年8月~10月)

8月

- 平和のつどい2014 なかのゼロ(7/26)
- 中野区「ライフサポートビジネスセミナー」(コングレスクエア)
- 認知症についての講演・日本医科大学精神神経科 講師・上田諭(東中野ボレシ座)
- 新井地区町連 少年野球大会(平和の森公園野球場)
- 仙台市障害者福祉施設・「まどか」を訪問(復興支援)
- 岩手助産師による復興支援団体「まんまる」、「結っ子花巻」を訪問(復興支援)
- 片山町盆踊り大会(8/8・9)
- 地方自治セミナー(豊島区民活動センター)
- 江戸川区・発達障害支援センター視察

1 8.15終戦記念日街頭演説会



- 2 西武新宿線連続立体交差化事業着工感謝式(野方WIZ)
- 3 小金井市・食育基本法について視察
- 西武新宿線期成同盟大会(野方WIZ)
- 中学校PTA連合会要望懇談会に会派代表参加
- 区内グループホーム(やくし、コル・テンポの家)視察・意見交換
- 地域包括ケアシステムの勉強会(白十字訪問看護ステーション所長・秋山正子氏)
- 4 やくしあいロードまつり(8/23・24)
- 片山町カレー大会(8/24)
- 子ども文教委員会(閉会中の委員会)
- 震災対策特別委員会(閉会中の特別委員会)
- 予算要望懇談会(区内11団体)

9月

- 予算要望懇談会(区内14団体)
- 消防団運営委員会
- 学校土曜授業公開参観(新井小)

- 柔道整復師会講演会(明治大学中野キャンパス)
- 松が丘助産院見学会・視察
- 上高田祭礼・神輿巡行(9/13・14)
- 区議会第3回定例会(9/11~10/15)
- 甲田ゆり子一般質問(9/16)
- 区職労主催セミナー「仕事と介護の両立について」(サンプラザ研修室)
- 消防団合同点検(江古田の森公園)
- 愛成会主催「厚労省の障害者芸術活動支援モデル事業採択決定報告会」(サンプラザ)
- 新井小運動会(9/27)
- 上高田2丁目町会日帰りバス旅行

10月

- 区議会第3回定例会(～10/15)
- 中野区障害児通所施設「たんぼぼ」「みずいろ」開所式
- 台風・大雨による妙正寺川等見回り
- 東北復興・ねぶた振興中野区議会議員連盟打合せ
- 6 にぎわいフェスタ(10/11・12)
- 6 子ども文教委員会地方都市行政視察(長野・新潟) 長野→「中野区立軽井沢少年自然の家」、「軽井沢町立図書館(中軽井沢駅ナカ図書館)」 新潟→新潟市「こども創造センター」



- 障害者福祉会館まつり
- 7 新井小ふれあいまつり
- 中野区空手道大会
- 五中文化発表会(なかのゼロ)
- 特別支援学級連合運動会
- あらいまつり(新井区民活動センター)
- 東北復興大祭典なかの(10/25・26)
- 地方議員セミナー「国民健康保険制度の理解と今後」、「役所を動かす質問の仕方」
- 甲田ゆり子区政報告会(&支部会)
- 区立中学校連合音楽会(なかのゼロ)

区民相談2014年8月~10月..... 66件
(2011年5月~2014年10月の累計696件)

甲田ゆり子連絡先

- 公明党控室 03-3228-8875 FAX 03-3389-8680
- ホームページ <http://koudayuriko.com/>
- ブログ <http://koudayuriko.com/blog/>
- Eメール kouda-yuriko@aioros.ocn.ne.jp
- Twitter @KoudaYuriko
- Facebook 甲田ゆり子 または Yuriko Kouda で検索

甲田ゆり子ホームページ



「甲田ゆり子」で検索でもOK!

甲田ゆり子



こう た 甲田ゆり子 ニュース

公明党 vol.014
発行元:中野区公明党議員団 ■ 2014年 冬号

地域のために!一人のために!一生懸命動きます!!

今年も「東北復興大祭典なかの」で「ねぶた」が運行
24万人の来場者で「ラッセラー」



10月25日(土)、26日(日)にかけて中野区役所周辺にて開催された「2014東北復興大祭典なかの」。両日ともお天気に恵まれ、合計24万人もの来場者で大盛況でした。

「ラッセラー、ラッセラー。」リズムカルで調子のよいこの掛け声。意味や由来については諸説あるそうです。もともとはお盆の「灯籠流し」などから始まったといわれるねぶた祭り。

昔は、各家や辻々を流して、門戸を訪れた人々がその家の人々に向ってろそくや菓子、振る舞い酒、はたまた祭りの寄付金などをねだる際に「出せ出せ、いっぺえ(いっばい)出せ」と調子をつけた掛け声をかけていた。その「出せ」の音が次第に変化して、いつしか「ラッセラー、ラッセラー」という今のよう形になったというのが有力な説だそうです。

甲田ゆり子も、東北復興・ねぶた振興区議会議員連盟の一員として、昨年から思いっきり跳ねています。汗びっしょり、筋肉痛になっても、疲れが心地よい「ねぶた祭り」の魅力があります。祭典の期間中、区役所1階のホールでは「東北復興祈念展」が開かれていました。東日本震災

による被災地の復旧・復興状況についてのパネル展示、東北の観光や文化の紹介、自衛隊の被災地救援・復旧活動の紹介もされていました。中野区は今も震災復興のために職員11人を被災した自治体に派遣しています。

3年半経った今もなお、仮設住宅での生活を余儀なくされている方も多く、復興の道はまだまだ続きます。私たちは、東北を絶対に忘れてはいけない、風化させてはならない、そして、このような催しを通じて多くの皆さんと決意を新たにしようが大切と感じています。

被災された皆さんの生活に一日も早く復興の日が来るよう、今後とも甲田ゆり子は、中野区とともに東北を応援し行動し続けてまいります。



一般質問に立ちました 平成26年 第3回定例会 甲田ゆり子の一般質問(9/16)要旨

地域包括ケアシステムについて

●地域包括ケアシステム 構築の意義・目的について

質問 地域包括ケアシステムのあり方としては、どこまでも介護を受ける一人ひとりの「本人の尊厳」と「健康寿命の延伸」、いつまでも元気でいるための「予防」、そして、年齢を重ねても常に「生きがい・張り合い」を持てる「生き方」が主眼。本人・家族が、必要に応じて自由に



「選択ができる」社会のシステムづくりをしなければならない。私は、介護・医療が単に連携するだけでなく、事業に携わるすべての人、さらに区民までもが共通の認識を持つことが欠かせないと思う。また、区の関係する部署が同じ意識を持って取り組んでいくことが重要である。この大転換期にあたって、区長の決意と見解は？

区長 あり方について、私も同感に感じている。区として地域包括ケアシステムの全体像を取りまとめ、早急にお示ししたいと考えている。区と区民とが共通の認識を持って地域づくり、まちづくりを進めていく必要がある。各部署が同じ目的意識を持ち、目標に向けて取り組んでいけるよう、庁内で検討をしっかりと進めて、強固な連携を作り出していきたいと考えている。

▼その他、以下を質問しました。詳しくは中野区議会ホームページの議事録をご覧ください。

- 健康寿命を伸ばす施策について
- 高齢者が働き続けることのできる仕組みづくりについて
- 介護、医療、地域資源、多職種連携について



切れ目ない子育て応援体制について

●産前・産後ケアについて

質問 近年、晩婚、晩産が進み、親の高齢化や就労もよりサポートが受けられず孤立した育児により不安が広がっている。これまで、妊娠出産を中心とした子育て支援の施策は数々作られてきたが、出産直後の期間における支援に大きな切れ目があると考えられる。「産後うつ」や「虐待」の予防・早期発見のためにも母親の心身のケアが重要であるが区の見解は？

(助産師を活用した助産師外来や柔軟な対応ができる母子デイケアなどへの助成はしては？)

また、「産後ドーラ」のような専門性を持ったサポーターの活用の仕組みも検討すべきでは？

答弁 区では、乳児家庭全戸訪問(こんにちは赤ちゃん訪問)によって相談支援を行い、必要な支援につなげる取り組みを進めてきた。しかしながら、特に産後早期のストレスが高まる期間において、安心を十分に確保するための継続的な取り組みは必ずしも十分でないことを認識しており、そうした取り組みが必要であると考えているところだ。助産師など産褥期の専門性を持つ支援者を活用することは重要であると考えている。仕組みを構築していく中で今回ご提案いただいたことなどについても含め検討する。



▼その他、以下を質問しました。詳しくは中野区議会ホームページの議事録をご覧ください。

- 在宅子育て、応援体制の強化について
- 子どもの権利条例について

安全・安心対策について

●妊婦の防災対策について

質問 妊婦は災害弱者という位置づけはあるものの、対策は十分とはいえない。実際に避難所では、自分から妊婦であることを言い出しにくく、黙っていても早産の危険性が高まったケースもあった。岩手の助産師会では、被災の経験を活かし、妊婦と子育てママ用の防災ブックを作成。細やかな情報が満載で、小さくまとまり携帯にも便利。避難所開設時に妊婦がいるかどうか必ず確認をすることを決めておく事とともに、中野区も妊婦や小さな子どもがいる家庭に向けてこのような防災ブックを作り日頃の備えに活用してはどうか。



◀東日本大震災時の妊婦さん、子育て中のママの体験談をもちこんだ、通称「ママほっけ」。病院・産婦人科医院のみならず、各市町村、保育園、子育て支援センターなどからのお問い合わせをいただき、約35,000部をお届けしました。防災は知っておくこと、準備しておくことで大分、対応可能なものといわれています。大震災を経験した岩手だからこそ、わが子を守ることのできるママへの思いで、配布しています。



答弁 妊婦の方も含めて、要配慮者の方への対応のあり方については、避難所運営上の課題として捉え、取り組みたい。また、妊婦や子育て家庭向けの防災に関する情報提供については、庁内の関係分野が連携して検討していきたい。

▼その他、以下を質問しました。詳しくは中野区議会ホームページの議事録をご覧ください。

- 女性の視点からの防災対策について
- アレルギーを持つ子どもに対応できる備蓄用食品について
- 薬物乱用防止対策について(危険ドラッグ)
- ヘルプカードとヘルプマークの普及啓発について

平和事業について



質問 来年は戦終70年。戦争を二度と起こしてはならないという思いを絶対に風化させてはならない。私は中野が平和を語る時、「平和の森」を忘れてはならないと考える。平和の森公園の場所は以前刑務所であった。戦時中には、戦争に反対し、平和をこいねがった人たちが、当時の治安維持法違反思想犯として捕らえられていた。今こそ当然のことが当時は許されなかった。こういった人々の思いを受けて、その跡地にできた公園には「平和の森」という名前が冠されたのだと思う。



来年の取り組みとして、公園内にある「平和資料展示室」を多くの人が集ってくださるようリニューアルしてはどうか。また、平和月間を設けるなどして、平和の思いをつづつた俳句や文章を区民からつづり、展示して、公園も使ってのイベント的な企画を行ってはどうか。親子で平和への思いをつづる企画もできるよう、教育委員会も協力すべきと考えるかどうか。

答弁 来年は節目の年でもあり、平和発信の取り組みを検討していきたい。平和資料展示室については展示内容を工夫し、広報を強化するなど、より多くの区民が訪れ、平和についての意識を高める場になるよう引き続き努力する。平和のつどいの持ち方なども工夫をしながら、子どもたちの参加についても教育委員会と連携して戦終70周年を機会とした取り組みを検討する。